

耳鳴について

Q 耳鳴は治療困難な疾患

耳鳴はありふれた疾患ですが、今なお病態が正確に解明されておらず、治療が困難な疾患として知られています。薬物療法はある一定の効果を認める場合もありますが、多くはそれのみで耳鳴の消失を得ることは現時点では困難です。

45〜79歳までの成人で耳鳴を持つ方は、男性13・2%、女性10・7%で、70〜79歳に頻度が高いとの報告があります。

難聴になると耳鳴を抑制する脳神経活動が低下することで、脳神経から耳鳴が発生・増強すると想定されています。この耳鳴を抑制するシステムは、加齢でも弱まります。

Q 近年の耳鳴治療法

耳鳴とうつは関連が深いことが最近の研究でわかってきています。耳鳴もうつも、その病気メカニズムには脳のDLPF C（前頭前皮質背外側部）と呼ばれる部位が深く関係しています。

Q 最新の耳鳴治療研究

耳鳴緩和に比較的效果があると思われるTRT療法は、耳鳴に関連する苦痛を緩和することが主体であり、耳鳴そのものの消失には効果がありません。そのため、反復経頭蓋磁気刺激法（rTMS）というアメリカの食品医薬品局に認可されたうつ病治療法を、耳鳴治療に応用しようとする研究が海外で行われています。具体的には、rTMS機器のコイルを頭に装着して頭皮の上から強力な電磁場を発生させ、周辺の脳細胞に反復磁気刺激を与えることで、耳鳴を抑制する神経経路を活性化させて治療効果を得ます。現在、耳鳴そのものを消失させる可能性のある唯一の手段として期待されています。ただし、この治療法にはまだ課題がたくさんあります。まず、rTMS機器は2016年時点で厚生労働省に医療機器として認可されていないため、日本で耳鳴治療に使用す

ることはできません（もちろん、当院には現在の機器はありません）。また現時点では、rTMSによる耳鳴消失期間は数日〜数週間と、その有効期間が短いことも大きな問題です。そのため、この治療法はまだ研究の域を出ておらず、臨床治療に用いることは非現実的です。今後の研究の進展が望まれます。



そのため、近年は耳鳴の緩和のために行う治療法として、神経生理学的な手法を用いた治療法が主流となってきています。それは「耳鳴再訓練療法（TRT）」

と呼ばれる。耳鳴そのものの消失を目的とせず、耳鳴に慣れて気にならなくすることを目的とした治療法です。医師による神経生理学的な説明（指示的カウンセリング）と、治療音を発生する耳鳴治療器（サウンドジェネレーター）による音響療法を合わせて行います。

近年は「強化TRT」と呼ばれる、TRTに心理療法を加えた治療法も行われつつあります。ただし、これらの治療法を行っている医療機関は東海地方では限られていますので、受診しようとする医療機関にまず施行しているかどうかお問い合わせ下さい（当院では残念ながら2016年時点でまだ行っていません）。

家庭で耳鳴を気にならなくする簡易的な方法は、換気扇や空気清浄機など音を発する物を運転し続けておくことです。生活環境で音が出ていることで、その環境音の方にも脳の意識が行くようになり、耳鳴が気になりにくくなっています。

今月の先生



岐阜市民病院 耳鼻いんこう科

棚橋重聡 先生

- 専門分野
頭頸部外科手術
- 役職
耳鼻いんこう科部長
- 主な資格、認定
日本耳鼻咽喉科学会専門医
医学博士
- 卒業年
平成11年卒